

のしろ児童館だより

小松市北浅井町1号21 TEL・FAX 22-6430 平成23年8月号

ああ夏休み

親にとって恐怖の夏休みがやってきます。

夏休みは普段できない体験をしたり、まとまった本を読んだり、そんなことに使えば一番いいのでしょう。しかし親がみんな働いていて、誰も家にいない家庭の子ども達にとっては、そう言われても困ることが多いのではないのでしょうか？

もてあます暇を、読書や工作、研究にしっかりと当てる子どもがいたら、それは素晴らしいお子さんですが、そしてそんな子は、大抵は親の方がしっかりとフォローしておられるのではないのでしょうか？恒例の夏の自由研究や読書感想文など、親の方の力を借りず自分でやり遂げる小学1，2，3年生がいたら、本当にすごいと思います。

大抵のお子さんは、最後の一週間になって、「あれもしていない・・・これもしていない・・・」と、親子で宿題をやっつけるのがお家の恒例行事になっているのではないのでしょうか？特に1，2年生の子どもたちにとっては、計画を立て、それに添って行動していくことはとても難しいことです。

そんなわけで、親にとっては恐怖の夏休みがやってくるのです。何とか少しでも規則正しい毎日にしようと思えば、次の3つのことを「マルモのおきて」にならって『我が家の掟』として夏休み前にノートに書いておくのはいかがでしょうか？

- ①朝ラジオ体操に行くこと、
- ②できるだけ毎日学校のプールに行くこと
- ③1日に一つは絶対家の仕事（手伝いではない）をすること

この3つが決まっていると、子どもの生活はそんなに乱れないと思います。

「全く自由」といわれると人間は大人もそうですが、どうしていいかわからなくなるものです。決まった事＝不自由なこと がいくつかあると、そこを軸にして生活を組み立てやすくなります。

これと同じことは、子どもの遊びについても言えるのです。「どの部屋を使ってもいいし、何の玩具を使ってもいいよ。自由に遊んでね。」と言われると遊べなくなり、「使ってもいいのはこの部屋とこの部屋です。使ってもいい玩具は、この棚の中にあるものだけです。」と制約を受けると、かえってその枠の中で安心してのびのびと遊べるという不思議なことがおこります。

風が高くあがるのは、根元をしっかりと握っているから、とよく言われますが「ちょっぴり枠をはめて、できたらほめて」この繰り返して、子どもは自分を律することを学んでいくと思います。

夏は親にとっても子にとっても、鍛えられる時ですね。